

Economic Indicators

発表日: 2024年3月8日(金)

景気動向指数(2024年1月)

～基調判断は「足踏み」に下方修正。2月分で「下方への局面変化」の可能性も～

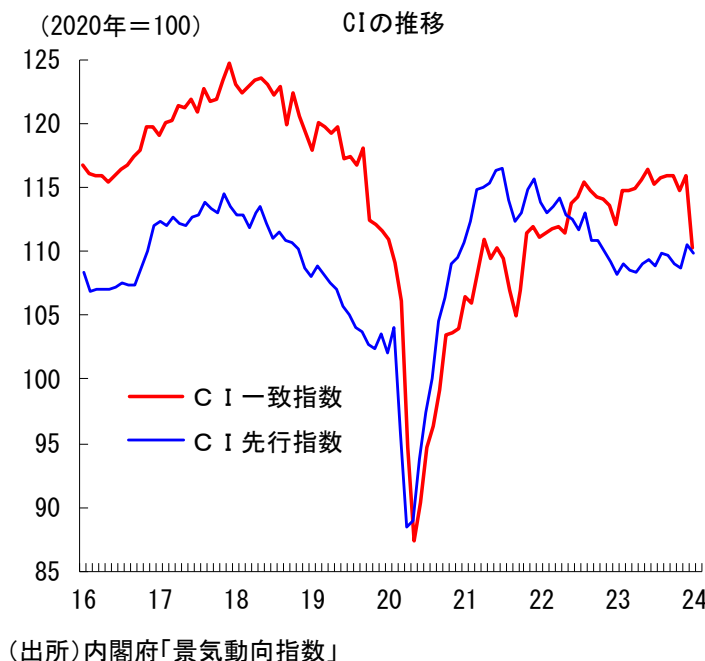
第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

自動車減産の影響で大幅低下

内閣府から公表された2024年1月の景気動向指数では、CI一致指数が前月差▲5.8ポイントとなった。低下幅は極めて大きく、新型コロナウイルス感染拡大により工場稼働停止が相次いでいた2020年5月(前月差▲7.2ポイント)以来の落ち込み幅である。採用系列の内訳を見てもほぼ全面的に落ち込んでいるが、特に鉱工業生産指数、生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、投資財出荷指数など生産・出荷関連の押し下げが非常に大きい。認証不正問題を受けた一部自動車メーカーの工場稼働全面停止等の影響が大きく出ているほか、自動車以外の関連業種にも落ち込みが広がっている。



基調判断は「足踏み」に下方修正。2月分で「下方への局面変化」の可能性も

CI一致指数の基調判断は、これまで9ヶ月連続で「改善」となっていたが、24年1月は「足踏み」へと下方修正された。「足踏み」判断は23年3月以来のことになる。

先行きについては不透明感が強い。CI一致指数と関連が深い鉱工業指数をみると、製造工業生産予測指数では24年2月に前月比+4.8%、3月に同+2.0%の増産が見込まれているが、1月の落ち込み(前月比▲7.5%)を取り戻す計画にはなっていない。また、予測指数の上振れバイアスを除去した経済産業省による補正值では、2月は前月比+0.8%と小幅上昇にとどまる。1-3月期の大幅減産は不可避の状況だ。また、予測指数の調査票提出は2月10日〆切であることにも注意が必要である。その後の状況を踏まえると、予測指数からさらに下方修正される可能性もあるだろう。2月の鉱工業生産が前月比でマイナスになる可能性も否定できない。

ちなみに、仮にCI一致指数2月も前月差マイナスになった場合、基調判断は「下方への局面変化」へとさらに下方修正されることになる。1月の落ち込み分が非常に大きいことから、さすがに2月は反動からプラスになる可能性が高いと考えているが、現時点で判明している2月の数字には弱いものが多く、警戒は怠れない。また、仮に2月がプラスの場合でも、3月がマイナスになればやはり

基調判断は下方修正されてしまう。さらに言えば、2月、3月とも前月差で僅かでもマイナスとなれば、基調判断は「悪化」へと下方修正される。

自動車減産は一時的なものとはいえ、仮に基調判断が「下方への局面変化」や「悪化」にまで下方修正されるとなれば印象はかなり悪い。24年1-3月期のGDPがマイナス成長になる可能性があることも踏まえれば、足元の景気の弱さが改めてクローズアップされることになるかもしれない。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

